

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

### .理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

### .安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

### .サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。

各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに を付け、適宜その内容を記入すること。

「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム よしの里

(ユニット名) ユニット1

記入者(管理者)

氏名 谷口由香

評価完了日

平成 19 年 10 月 23 日

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月23日

【評価実施概要】

事業所番号	3873900694		
法人名	医療法人 岩村外科胃腸科		
事業所名	グループホーム よしの里		
所在地	宇和島市吉田町魚棚20-5		(電話) 0895-52-3511
管理者	谷口 由香		
評価機関名	特定非営利活動法人 JMACS		
所在地	松山市三番町六丁目5 - 19 扶桑ビル2階		
訪問調査日	平成19年12月5日	評価確定日	平成20年1月23日

【情報提供票より】 (平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要			
開設年月日	平成17年5月21日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	12人, 非常勤 2人, 常勤換算 12.0人
(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)			
家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	利用状況により異なる
敷金	有( 円) (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		
(3) 利用者の概要 (平成19年10月1日現在)			
利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名
要介護3	8 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 70 歳	最高 93 歳
(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算			
指定 (あり)・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護		
指定 あり・(なし)	指定認知症対応型通所介護		
届出 あり・(なし)	短期利用共同生活介護		
加算 あり・(なし)	医療連携体制加算		

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>事業所では、イルミネーション等が飾られている。階段は両側に手すりを設置し、安全に昇り降りできるようにされている。                  通院・理美容院・喫茶店・図書館・買い物等、利用者個々の要望に合わせて、細やかに外出できるよう対応されている。ご家族の都合でお墓参りに行けないような時には、職員が同行されたこともある。                  栄養士が作成した献立表をもとに、利用者の食べたい物を採り入れ、メニューを決めておられる。おいしい物を提供するため、お米や畑で獲れた野菜等、食材の鮮度にこだわり、調理されている。</p>
--

【質向上への取組状況】

<p><b>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</b></p> <p>・前回の評価結果を受けて、脱衣所のカーテンやつい立、入浴中の札等、利用者のプライバシーに配慮して設備を工夫された。</p>
<p><b>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</b></p> <p>・運営者・管理者・職員全員で自己評価に取り組まれた。1年間のありのままを振り返り、文章作成することは大変な作業であったと話されていたが、年に1度の貴重な機会と捉え、積極的に取り組まれた。</p>
<p><b>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)</b></p> <p>・事業所で議題を決め、資料を用意され、茶話会のような雰囲気意見等が出していただけたよう努めておられる。現在、地域の方の出席が少な目である。</p>
<p><b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</b></p> <p>・家族会や行事の際に、ご家族と話し合いをされている。</p>
<p><b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b></p> <p>・自治会の溝掃除や公民館で行なわれたロビー展、お祭り等に参加されている。</p>

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 現在の理念は開設当初からのものであり、ホームに大切な「家庭的であること」「普通である生活」を掲げている。開設3年目にして、認知症になっても普通の生活を営むことができるために地域の方々との関係を深める内容である理念が必要であると感じている。		職員それぞれが考えを出し合い、新しく、認知症の方が地域で生活していくために必要な理念を作っていくことも必要かと思っている。
			(外部評価) 「家庭的な環境のもとで、あたり前に普通の生活を」という事業所の理念に基づき、地域の中で当たり前の生活を支えていくことに取り組んでおられる。		さらに、貴事業所が「地域の中でどのようなことを目指していくのか」ということを考えてみるような機会とされてみてはどうだろうか。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 管理者は、日々の業務の中で何かにつまづいたとき、考えが行き詰まったとき等には、理念について職員と共有していけるよう努めている。		理念についての統一した考えが得られていないように感じることもある。誰のための何のための理念なのかを再度考え直し、日々のケアに再度取り組みたい。
			(外部評価) 管理者は、職員に「当たり前の生活」を常に頭において、利用者と向き合うよう伝えておられる。職員は、迷った時等には、理念に基づき振り返るようにされている。		
3		家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 家族会やパンフレット等において理念の大切さや職員の思いもお伝えできるよう努力している。		理念が浸透するために、家族や地域の方々にも理解が得られるよう職員の統一した思いを再度確認していきたい。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 利用者は地元の方が多く、近隣の方との日常的なお付き合いはできていて、商店の方とも顔なじみの関係があり声を掛けていただいたり、また日向ぼっこをしていると散歩の途中に立ち寄っていただいたりしている。		特定の人のみならず、幅広い年齢の方や通りがかりの人にも気軽に立ち寄っていただける関係作りを取り組んでいきたい。
5	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 自治会の掃除に参加したり、まつりの神輿やしか踊りの時には交流している。近くの幼稚園とは、運動会に参加したり、ひなまつりには来訪していただき、遊戯会を開いていただいたりしている。		これからは、参加していなかった行事等にも積極的に参加できるよう努めていきたい。
			(外部評価) 自治会の溝掃除や公民館で行なわれたロビー展、お祭り等に参加されている。		事業所では、地域の方達にさらに、事業所のことを知っていただき、事業所にも立ち寄っていただけるよう、さらに、交流を深めていきたいと考えておられた。
6		事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議を通して、実践報告を行っている。その中で、地域の方のためにも役立つことはないか随時話し合いをしている。		事業所として、どのように地域に貢献できるのか検討して取り組んでいきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 毎年、運営者、管理者、職員全員で自己評価を行って外部評価を受けている。その中で、実施する意義を理解するよう努めていて、具体的な改善にも取り組んでいる。		具体的な改善に向かってはいるが、運営者、管理者、職員は評価をいかして、目標となるものが一つとなるよう、改善に取り組んでいきたいと思う。
			(外部評価) 運営者・管理者・職員全員で自己評価に取り組みされた。1年間のありのままを振り返り、文章作成することは大変な作業であったと話されていたが、年に1度の貴重な機会と捉え、積極的に取り組まれた。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)  毎回利用者や職員も参加し、様々な立場の方からの意見も参考にしてサービス向上を目指した話し合いを行っている。その中で、評価への取り組み状況等の報告も行っている。		良い意見のみ聴けるのではなく、改善していかねばならないこと等も聴くことのできる会議になるよう、参加者にアプローチしていきたい。
			(外部評価)  事業所で議題を決め、資料を用意され、茶話会のような雰囲気で見聞が得られやすいよう努められている。現在、地域の方の出席が少な目である。		
9	6	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価)  管理者は市単位の地域ネットワーク会議等への参加を積極的に行っている。ホームでの不明な点も気軽に聞ける関係にある。		
			(外部評価)  管理者は、地域のグループホームを代表して、地域ネットワーク会議に参加されており、包括支援センターや市の担当者と情報交換されている。		
10		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価)  現在勉強中ではあるが、利用者の中で地域福祉権利擁護事業を利用されている方がいるため、その都度関係者と話し合ったり、他にも必要な方々への支援も行っていきたいと思っている。管理者や職員も研修等に参加して、学ぶ機会を持っている。		何度かの研修参加や勉強会を通じて、制度に対する知識を深めていきたい。
11		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  高齢者虐待防止関連法の冊子を目に付くところへ置いたり、他の施設等で起こった事件は、新聞切り取りをして申し送り等で話し合うようにしている。しかし実際身の回りで起きていないため重要性を感じている職員は少ないように思う。		虐待は遠いところでのことと捉えず、事業所内においても虐待が見逃されないように通常より職員同士気をつけあったり、研修等を受けることによって早期に防止できるよう取り組んでいきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約、入居の際には十分な時間をとり説明をして納得をしていただいている。また、ご利用者や家族の不安や疑問点を良く聴き、その都度話し合い理解・納得を図っている。解約の際には、話を良く聴き誠実に対応している。		契約時には、見学をしていただいたり、パンフレット等での説明により契約に関して不安がないよう対応していきたい。
13		運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意思の表出ができない方においてはご利用者と会話をしているときの顔つき等を伺うことによって、不満・苦情を察するように心がけている。意思の表出ができる方には会話の中で確認を行いそれらを運営に反映させるようにしている。		食事の時や散歩時、入浴時や行事のとき等に意見を言っていたりやすい雰囲気作りに努めていきたい。
14	7	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 年2回発行のホーム便りや月1回のポストカードでご利用者の暮らしぶりや健康状態を伝えている。金銭管理においては、出納を明確にして月末に収支報告書を送付している。時々のご家族にお電話をして様子を伝えるようにしている。		変わったことがあってもなくても、定期的に電話等により報告するよう努めていきたい。
			(外部評価) 年2回のホーム便りで行事等、事業所の取り組みを伝え、ご家族の来訪時や電話で、ご本人の様子・金銭管理についての報告をされている。		
15	8	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関には意見箱を設置し、面会時にはご家族からの苦情等を聴くことができる環境を整えている。また、入居時には市役所や国保連合会の苦情窓口も紹介している。		どうすれば、直接言いにくい苦情を言いやすくなるのか考えていきたい。
			(外部評価) 家族会や行事の際に、ご家族と話し合いをされている。		
					事業所のさらなる質の向上のためにも、ご家族から気軽に意見をいただけるような雰囲気作りや、仕組み作り等の工夫が期待される。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1回のミーティング、年に数回の全体ミーティングを行い意見や提案を聞く機会を設けている。また、提案書を提出して、運営者、管理者が回答を行う話し合いも設けている。		ミーティング後には、会議記録を作り職員全員が目を通すよう努めている。
17		柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) ご利用者やご家族の状況に変化があった場合、勤務変更等起こりうる事態を、職員は理解している。		行事等において職員の参加が必要なときには、休みの職員も自主参加にて協力できる体制にある。
18	9	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) ご利用者が、職員の異動等によって混乱が起こったり不安になったりすることのないよう異動は必要最小限に抑えている。行事の時には、全職員がご利用者に関わることによって顔馴染みの関係を築いたり、コミュニケーションをとるよう努めている。		今のところ、開設後の離職者は少ない。法人内の人事異動もあるため、ダメージを防ぐため必要最小限の対応をしていきたい。
			(外部評価) 法人内の異動はあるが、職員は、利用者に伝え、会いに行かれたり、来られる等、その後も関わりを持っておられる。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 出勤簿に研修案内をはさんで職員は常に情報を得られるようにしている。その中で、年に2回程度受講するよう努めている。研修後にはレポートを作成し、ミーティング等によって全職員が学び業務に取り組んでいる。		今年度は、宇和島市グループホーム協議会が活動を開始する予定である。その中で研修等の機会があれば参加していく予定である。
			(外部評価) 外部研修の案内を周知し、受講希望者を募る等、事業所では、研修受講を推進されている。職員の意識向上に役立ち、研修で得た知識等をケアに活かせるよう努めておられる。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)  2ヶ月に1度の運営推進会議には他のホームとの交流も図っている。お互いにホームを行き来し情報交換等も行っている。		今年度は、宇和島市グループホーム協議会が活動を開始する予定である。今まで顔を合わせた事のなかった方との交流を通じてサービスの質向上を目指して行きたい。
			(外部評価)  運営推進会議に、他グループホームからも出席いただき、他ホームの取り組み等も聞かせていただいている。		地域ネットワーク会議を通じ、他グループホームとの交流する機会も増えてくるようである。今後の交流から貴事業所のさらなる質の向上につなげていけるような取り組みが期待される。
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価)  ストレスを溜め込まないように、時間に余裕があるときには皆で話し合う機会を設けることによって、ストレスを軽減している。また管理者が職員の話に耳を傾ける環境づくりも行っている。		運営者は、年に数回、職員が交流できる会を設けストレス軽減を図っている。
22		向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価)  運営者は、良い研修等があれば積極的に参加できるような研修費等のバックアップを行っている。また管理者は、職員の不安や不満を取り除くため個別に面談を行っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価)  ご利用者は入居間もない頃には不安や困っていることがあるため、ご利用者が安心して暮らしていけるよう信頼のおける職員を作り、ご本人を受け止める機会を作っている。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24		初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 会話の中で家族が不安に思っていることや求めていることを察知するようにしたり、言い出しやすい雰囲気作りに努めている。また、入居当時には管理者から本人の状況を家族に頻りに連絡している。		普段の生活の中から、第一印象で話しやすい雰囲気を作ったり、表情に注意することを心がけるよう努めていきたい。
25		初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人やご家族の意見をじっくりと聴き、現在の状況や生活歴、趣味等を参考にし、プランを立てたり連携の取れた病院と相談している。		
26	12	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) ご本人の様子を伺い、ホームが過ごしやすい場所であると思っただけのような雰囲気作りをしている。また、混乱を防ぐため職員はご本人に対して同じ対応ができるように努めている。ご家族にはできるだけご訪問していただくよう働きがけている。 (外部評価) ご本人が十分に納得いかないまま入居となるようなケースもあるようだが、入居後、ゆっくりと事業所の暮らしに馴染んでいただけるよう、ご家族とも相談されながら取り組まれている。		自分の居場所だと思っただけのよう、少しずつ役割を持っていただいたり、他者との仲を取り持って行きたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 利用者と共に食事作りや後片付けをしたり、何気ない日常の会話を楽しんだり、昔の遊びや行事の慣わし等を教えていただける機会を作っている。 (外部評価) 職員は、利用者同士の関係性等から思いやりを教わったり、漬物の漬け方・米の研ぎ方・干し柿の作り方等を教えて頂いている。		ご本人に、職員が本当の家族であるように思っただけのような深いつながりを大切にしていきたい。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 年中行事等においては、ご家族と共に食事やレクリエーションを楽しんでいただいたり、ご家族の話を傾聴し、ご本人への支援に対して納得がいくまで話し合うようにしている。		ご家族と共に外出できるような機会を増やして行きたい。
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 職員は、ご本人とご家族の関係の理解に努め、より良い関係を築くため、様子を伺いながら会話に参加したり時には席をはずしたり工夫をしている。またホームではいつでも面会ができる環境を整えている。		共に過ごせる時間を大切にさせていただきたいため、ご家族の面会を積極的に促している。
30		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 時折、今まで過ごした場所に帰ることによって地域の方々との交流を大切にしている。また、ドライブや散歩で立ち寄りたり、祭り等の行事にも参加したりしている。		馴染みの方との関係が途切れることのないよう、取り組んで行きたい。
31		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 個々の性格や状態に応じて、その時々で職員はご利用者同士の橋渡しをして関係が崩れないよう努めている。		ご利用者同士のきずなが深まるような取り組みをしていきたい。
32		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退居された方のご家族にも町でお会いした時には気軽に声を掛けていただき、時々来所していただいたりしている。他の施設へ移られた方にも、ご利用者と共に面会に行く等して、関係を断ち切らないよう心がけている。		相手を気遣う気持ちを忘れず、いつでも立ち寄りいただける環境づくりに取り組みたい。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
33	14	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)		
			職員は、一人ひとりの思いを把握してできる限りご本人の希望で生活できるよう努めている。また真意を確認できない方においては、ご家族からも意向を聞くよう努めている。		ご本人の希望と職員の接し方に、すれ違いが生じないよう、また細かいことを見落とさないよう努めていきたい。
			(外部評価)		
			入居時、ご家族からご本人のことをうかがい、又、普段の暮らしの中での会話や行動から思いの把握に努め、職員は、「いつもと違うこと」を見逃さないよう、気を付けておられる。		
34		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)		
			ご本人に話を伺ったり、普段の会話の中で見出したり、またご家族に話を伺い今までの生活と差が出ないよう、暮らしの把握に努めている。		個々の馴染みの違いにトラブルが生じることなく、一人ひとりの暮らしがより良いものになるよう取り組んでいきたい。
35		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価)		
			職員は個々の性格や有する力等を把握しており、変わったことがあれば随時話し合いを設けている。また、毎朝のバイタルチェックにおいて顔色、話し方、動き、排泄の状況を確認し見守っている。		
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価)		
			家族会を開いてご家族に話を伺う機会を設けたり、カンファレンスやミーティングにおいても、本人にとって暮らしやすい方法を話し合い介護計画を立てている。また、少しずつではあるがご本人にも会議に出席していただいている。		日程の関係もあるので全家族に会議に出席していただくことは出来ていないが、その会議に代わるものを作って意見を反映していきたいと思っている。
			(外部評価)		
			ご家族の意見を電話で聞き取り、ご本人も参加して、介護計画を作成されている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	16	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価)		
			毎月末にはモニタリングを行い、見直しの機会を設けている。その都度必要な場合には関係者との話し合いを設け、新たな介護計画を作成している。		早期に状態の変化に気付き、介護計画の見直しができるよう取り組んでいきたい。
			(外部評価)		
			毎月、介護計画の内容についてモニタリングを行い、必要に応じて見直しを行なっておられる。		
38		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)		
			個人別にケース記録を作成し、日勤帯、夜勤帯ご本人の状況を記入するようにしている。排泄、バイタル等においても記録し、介護計画の見直しに活かしている。		以前、ケース記録以外は一覧で表示していたが、今年度個別記録に記載することに取り組んだ。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価)		
			買い物や散歩等、個別外出の支援を行い、ご本人の要望や希望に添えるような柔軟な体制を整えている。		
			(外部評価)		
			通院・理美容院・喫茶店・図書館・買い物等、利用者個々の要望に合わせて、細やかに外出できるよう対応されている。ご家族の都合でお墓参りに行けないような時には、職員が同行されたこともある。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 月に数回ボランティアの方々の協力を得て、カラオケ、習字、押し花、お茶のクラブを行っている。また、年に2回消防署の協力を得て、避難訓練も行っている。今年度初めて、公民館のロビー展で作品の展示も行った。		これからも運営推進会議を通じて、地域資源との協働を図って行きたい。
41		他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 今のところ他のサービスの要望を聞かれたことはないが、必要に応じて対応していきたい。		
42		地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括支援センターとは、管理者が地域ケア会議への出席をする等協働をしている。		
43	18	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 母体が医療機関であるが、ご本人やご家族の希望される医療を受診できるよう支援している。その都度結果を連絡しあうことにより納得を得られるように支援している。 (外部評価) 母体の医療機関を主治医に希望される方が多いが、ご家族ご本人が希望する病院を受診することも支援されている。ご家族が通院介助できない場合は、職員が同行されている。		
44		認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 協力医療機関には、認知症に詳しい医師が常駐しており、身体的、精神的変化も含め細かく報告することにより利用者が診断や治療を受けられるよう支援している。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45		看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 協力医療機関の看護師とは連携がとれ、昼夜問わず気になることは気軽に相談できる関係にある。		定期的に講習を受ける等、医療に関する知識を広めて行きたい。
46		早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院中は、医療機関、ご家族とも密に連絡を取り合い様子を聞くなどし、早期に退院できるよう働きがっている。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入居の際には、ご本人、ご家族より重度化したときや終末期について考えを聞くようにしている。またそうなったときには、段階段階で話し合いを持ち、状態に応じた対応ができる環境を整えている。 (外部評価) 入院や母体施設の入所を希望される方が多いようである。現在は、事業所での看取りや重度化した場合の対応は、その時々話し合うようになっている。		さらに、終末期のケアについて、ご本人の思いを聴き取る取り組み等も期待される。事業所の馴染みの顔や環境の中で過ごしたいと思われている方はいないか、ということも考えてみられてはどうだろうか。
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 協力医療機関との連携は十分にとっており、その方の状況に応じた支援体制はできていると思う。職員は本当の終末期を経験したことがないので、不安があるのが実情である。		医療面への知識を広め、終末期においても不安がないように勉強会等を重ねて行きたい。
49		住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 入居時には、ご本人ご家族より以前の生活について詳しく情報収集を行うようにしている。入居後は、カンファレンスや申し送りでの情報交換を行いダメージを最小限に抑えるよう努めている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>					
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>					
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
50	20	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>(自己評価) 個人情報の保護については、職員はミーティン等で徹底するよう努めている。記録等は鍵のかかったところへ保管している。ご利用者への対応については、電話は居室にて利用していただき、入浴は衝立を利用し安心して入浴していただくようにしている。またできないこと間違ったことには言葉がけに注意するよう努めている。</p> <p>(外部評価) 着替えや傷の手当等は、居室で行なうようにされている。職員は、利用者に声をかける際のトーンについても気配りをされていた。</p>		<p>トイレ誘導時には、プライバシーを損ねない声掛けに注意をし、また居室訪室の際には必ずノックして入室していきたい。</p>
51		<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>(自己評価) したいこと、行きたい所、食べたいもの等、急いで返事を求めず、ゆっくり希望が聞けるような声掛け、雰囲気作りをしている。また自己決定、意思表示においては、能力に合わせて支援するようにしている。</p>		
52	21	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>(自己評価) ご利用者の話に耳を傾けたり、一緒に散歩に出掛ける、買い物に行く等、その日の体調や希望に合わせ、一人ひとりのペースを乱さないような支援をしている。</p> <p>(外部評価) 起床時間・食事時間・寝る時間は、利用者個々のその日の状態等にも合わせ、支援できるよう努めておられる。</p>		<p>散歩の際、大勢で行くだけでなく、個人のペースや歩幅に合わせて出掛けるよう支援していきたい。</p>

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 毎日ご本人に選んでいただいた服を着ていただくようにしているが、乱れ等についてはさりげなく声掛けするようにしている。理美容院についてはご本人のご希望に沿うよう支援している。		おしゃれについては、洋服のみならず、化粧等、外出の際の身だしなみについても支援できるよう努めて行きたい。
54	22	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一緒に食事をしながら好みのおかずを聞き、メニューに取りいれている。その人に応じて食べやすく切ったり、量を加減する等個別に対応している。また、準備や片付けは共に行うことによってコミュニケーションをとっている。		皮を剥いたり切ったりだけでなく、味付け等も行えるよう支援していきたい。
			(外部評価) 栄養士が作成した献立表をもとに、利用者の食べたい物を探り入れ、メニューを決めておられる。おいしい物を提供するため、お米や畑で獲れた野菜等、食材の鮮度にこだわり、調理されている。		
55		本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 飲み物や、おやつは、買い物にでかけた際ご自分で選んでもらったり好みの物を日常的に用意できる環境を作っている。酒類は行事のときなどに楽しんでいただいている。		
56		気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表を作り、排泄パターンを把握して個別に声掛けを行っている。失敗があったときにも自信を失わないような声掛けに注意し、気持ちよく排泄ができるように支援している。		排便においては、食事に注意して水分等も多めに摂るようにはしているが、まだスムーズな排便を促すことが出来ないこともあるため、体操等も取り入れて行きたい。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	23	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価)		
			お一人お一人のご希望の時間に入浴できる体制である。今のところ入浴を拒否される方はおられない。		
			(外部評価)		
			仲良しの方と一緒に入浴されたり、職員は、ご本人が体を洗う際、手の届きにくい部分をお手伝いされている。時に、近隣の施設の足湯に出かけ、楽しまれている。		
58		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価)		
			日中、お一人お一人の状態を把握して、必要に応じて居室で休んでいただく時間を作ったり、天気の良い日には日光浴を行い、また散歩にも出掛け安眠できるような支援をしている。		これから寒くなる季節には、夜寝る前に足浴をし、天気の良い日は布団を干す等、気持ちよく眠れるための取り組みを予定している。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価)		
			お一人お一人の生活歴や能力を活かし、縫い物、編み物、食事作り等役割を持って生活していただいている。喫茶店へ行ったり図書館へ行ったりして、気晴らしができる時間も大切にしている。		
			(外部評価)		
			食事の準備・片付け・草引き・掃除等をされたり、編み物・習字・貼り絵・カラオケ・喫茶店や図書館へ出かける等、一人ひとりについて楽しみごとや張り合いを見出し、個別に支援されている。		
60		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)		
			職員は、本人がお金を持つ大切さを理解しておりお一人お一人の希望、力に応じて所有していただいている。買い物に出掛けた際には個別に財布を持ち、支払いをしていただくよう支援している。		今後もできる限り、能力を維持し、支払いを忘れないよう支援していきたい。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	25	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価)		
			近くのスーパーに買い物に出掛けたり、天気の良い日には庭に出て日光浴をし、室内に閉じこもらない工夫をしている。イベントには積極的に参加している。		地域の行事(お祭り、産業祭、運動会等)で、出掛けたいものには個別に希望を取り、地域に密着した外出支援をしている。
			(外部評価)		
			庭のベンチで日向ぼっこを楽しまれたり、散歩や買い物等にも出かけておられる。		
62		普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価)		
			利用者が行きたいところを把握しており、ご家族、ご本人と相談、協力して外出が実現できるよう支援している。		今年度は、普段行けないところへも出掛けることができた。(大型バスで城川町かまぼこの板展覧会へ、ご利用者ほぼ全員で出掛けた)
63		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)		
			電話を掛けたい場合はとりつぎ、手紙などにおいてもできない部分は職員が補いつつでも書ける環境を整えている。		訴えない方においても、職員が察知し、ご本人が字を書くことを忘れてたりしないように定期的に取り組みで行きたい。
64		家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価)		
			特に面会時間を規制することなくいつでも来ていただきやすい雰囲気を作っている。常に挨拶を心がけ気軽に訪問できるような環境を整えている。ご利用者と共にくつろいでいただけるよう、居室だけでなく居間も開放して利用していただいている。		居室の他に、ご家族とご本人だけで過ごせるような空間作りも考えていこうと思う。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 現在当ホームにおいては身体拘束の必要性はないが、身体拘束はしてはいけないことをすべての職員は正しく認識しており、身体拘束にないケアを実践している。		これから先、身体拘束の必要がある場合でも、基準の法律を常に理解して取り組んでいきたい。
66	26	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中鍵はかけておらず、ご利用者が普段からどこへ行きたいと思っているかを把握している。ご利用者の心理的な圧迫感を取り除くよう、普段から鍵をかけずにすむような配慮をしている。  (外部評価) 日中は鍵をかけず、職員は、利用者個々が過ごしている様子の把握に努め、ご本人が出かけたいような雰囲気を感じ、支援されている。		不穏時には特に注意し、共に出かける等早めの対策を講じている。近隣の方たちにはグループホームを知っていただいている、顔見知りになっている。
67		利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 常に職員はお一人お一人の所在を把握している。日中はご利用者の近くで記録を記入したり、夜勤帯では常に居場所の確認をして安全を心がけている。		いつもと違った様子を感じ取り、安全を心がけていきたい。
68		注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 薬、包丁、針、お金等職員全員が管理方法を決めている。ご利用者には、個別の能力に応じてご自分で保管していただいているものもある。		これからも、使えるもの使えないものを把握して、個別に管理できるよう取り組んでいきたい。
69		事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 年2回火災等を想定して避難訓練を行っている。緊急事態の対応について、職員間で話し合い連携が取れている。事故が発生した場合には、事故報告書やひやりはっと等において報告し皆でミーティングを通じて再発防止に取り組んでいる。		薬の管理ができない方が多く、誤薬を防ぐために飲み終わるまで職員が見守りを行っている。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 協力医療機関が近隣にあるため、常に相談しやすい体制が整っている。		母体の看護師に定期的に指導、講習をしていただき事故発生に備えておきたい。
71	27	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 火災、地震共にマニュアルがあり、年に2回職員ご利用者全員での訓練を行うことにより、防災意識を高めている。昼夜どちらの場合にも対応できるよう、消防署の指導を受けながら訓練している。また近隣の方々には、運営推進会議や自治会を通じて協力を得られる体制でいる。 (外部評価) 年2回、消防署の協力を得て、火災・地震・津波等を想定し、避難訓練を行なっておられる。運営推進会議時に、地域の方へ協力をいただけるようお願いされている。		さらに、いつ起こるか分からない災害に備え、利用者全員が安全に避難できるような方策について、繰り返し話し合われてほしい。
72		リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 入居時には、起こりうるリスクについてご家族と話し合うように努めている。入居後は、日頃の暮らしぶりを具体的にご家族に報告し関係を密にするよう努めている。面会時に情報を伝えるようにしているが、遠方のご家族には定期的に連絡をするようにしている。		起こりうるリスクに関して、その都度その都度、家族と深く関わることによって、早期に防げるよう取り組んでいきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝バイタルチェックを行い、変化があれば再検し常に状態の変化を見極めるようにしている。顔色等少しでも変化があったときには申し送りにて職員全員がご利用者の状態を把握している。状態によっては協力医療機関への報告を行って指示を仰いでいる。		ご利用者の小さな変化や、いつもと違う行動などを見逃さないよう日頃から観察できるようにしていきたい。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
74		服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 事務所には服薬リストを置きいつでも確認できるようにしている。服薬の際にはご本人の薬であることを十分に確認した上で服薬支援を行うようにしている。		
75		便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝の牛乳や朝食、10時のおやつ、昼食、15時のおやつ、夕食時、摂取量も把握した上で水分補給を行っている。また野菜中心の献立を取り入れて、体操も行い自然排便を促すよう努めている。		居室に閉じこもったり、長い間同じ姿勢でおられる方には、声掛けして身体を動かすような取り組みもしていきたい。
76		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後個々に行っているが、磨き残しが多く、その部分は職員が支援するようにしている。義歯の管理ができない方も、夜職員が磨き次の日に気持ちよく使っていただけるように努めている。		協力医療機関の歯科医師に相談して、定期的に口腔内の点検を行っていただけるよう取り組んでいきたい。
77	28	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 母体の医療機関の栄養士が立てた献立を元に、ご利用者の希望されるメニューを取り入れ食事作りに取り組んでいる。月2回の体重測定によりご本人の食べる量の確認を行い、お一人お一人の状態を把握するようにしている。 (外部評価) 食事や水分の摂取は、個別の記録で把握されており、水分が不足ぎみの時には、好きな飲み物やみかん等、摂りやすいものをすすめておられる。		ご利用者が希望されるときにいつでも水分摂取ができるような取り組みを行い、習慣に応じた支援をしていきたい。
78		感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	(自己評価) 外出先から帰ったときには手洗いうがいをしている。また日頃手洗いの習慣をつけることで感染症を予防するよう努めている。毎年のインフルエンザの予防接種を欠かさず受けている。毎日、台所用品(まな板、ふきん等)の消毒をし、また手すりや洗面台、トイレの消毒もして感染予防を徹底するよう努めている。		グループホーム連絡協議会が開催する感染症の研修を受けていく予定である。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79		<p>食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>(自己評価) その都度、食器や調理器具等を洗い、清潔を保てるよう定めた場所にて管理している。食材においても、職員の管理の下、近くのスーパーや町内の業者から購入する新鮮で安全な食材を使用している。</p>		
<p><b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> (1)居心地のよい環境づくり</p>					
80		<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 玄関には手作りの表札を掲げ、季節の花を植えたり植木を飾ったりしている。居間伝いの庭にはベンチを置きご利用者が団欒している様子を公共の道路から垣根越しに見ることができる。</p>		<p>玄関にはスロープが設置してあるが、居間から庭に出る際には段差があるため安全に出入りできるよう工夫していく必要があると思っている。</p>
81	29	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居間でテレビを見る場合は、お互いが共有している空間であることを理解していただき、個々が不快にならないように声掛けしたり、音や光の調節を行っている。季節の花を飾ったり、壁面を飾ることにより季節感を味わえるように工夫している。</p> <p>(外部評価) 事業所では、イルミネーション等が飾られている。階段は両側に手すりを設置し、安全に昇り降りできるようにされている。</p>		<p>ご利用者と共に季節感を味わえるように、花を生けたり壁面の飾りを作ったりしていきたい。</p>
82		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共同空間である居間には、ソファを置いたりじゅうたんを敷いたり手作り座布団を置いて、誰でも自由に過ごせるよう工夫している。</p>		<p>共用空間の中には独りになれる場所がなく、課題となっている。ホーム内での場所確保を検討しているが、安全面で苦慮している状態である。</p>

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)		
			使い慣れた家具や仏壇を持ち込んでいただき、ご家族の写真を飾ったりされている方もおられるが、クローゼットが広くたんすの代わりにしているため、家具等の持込が少ないように思える。		荷物が少なく、居室が殺風景にならないように月のカレンダーを飾ったり、作成した物や行事の際に撮った写真などを飾るようにしている。
			(外部評価)		
			木製のベッドとクローゼットは事業所で準備されている。タンス・仏壇・テレビ・椅子等の家具が持ち込まれ、化粧品・写真・ご自分の作った作品が置かれている居室もうかがえた。		
84		換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価)		
			季節や気温、ご利用者の状態に応じて窓を開けたり、居室の温湿度計を元に間接的な冷暖房に気をつけている。また、空気が乾燥している時には加湿器を用い、換気にも十分注意をして快適な環境を作るようにしている。		各空間でにおいが気になるときは、換気扇だけでなく、窓を開放したりその都度対応していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)		
			居室、廊下、トイレ、浴室には手すりがあり、また浴室は滑りにくい工夫がされている。現在ご入居のご利用者においては、身体機能の低下があっても出来る限り自立した生活が送れるよう配慮されている。		これから身体機能が著しく低下しているご利用者が入居された場合には、浴室において利用できないことも起こりうることを想定した取り組みも行ってきたい。また現在脱衣場から浴室に移動する場合、手すりの位置の工夫を考えている。
86		わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価)		
			お一人お一人のわかる力を活かして、混乱を招かないよう、各居室にはご本人と共に作成した表札を掲げ、トイレは大きな字で表示したり、浴室には「ゆ」の暖簾をかけている。		
87		建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている	(自己評価)		
			庭には芝生を植え、ベンチを置いて天気の良い日には日光浴をしたり、ご利用者同士で話ができ楽しく過ごせるようにしている。夏祭りや、お月見などの行事にはちょうちんを飾り雰囲気味わってもらい、楽しく会食していただいている。		ご利用者は、自ら庭を積極的に利用していただいている。

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ② ほぼ全ての利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんど掴んでいない	日々の生活の中から、利用者の言葉や表情を観察し、またご本人の希望も聴くことによって暮らし方の意向を掴んでいるつもりであるが、精神的な面においては本心を掴むことができない場合もあると思っている。
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	一日に一回は必ず(食事の時間、庭先での時間、レクリエーション時、ソファでゆっくり座る時間等に)利用者と共にゆったりと過ごす時間を大切にしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	生活の全ての時間において、強要することはせず、ご自分のペースで暮らせるよう支援している。ご自分の趣味やできることを行える時間も大切にしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ドライブや買い物の趣味のある方においては、職員と一緒に行動することで活気のある表情が見られる。何事にもやる気がない方においては、声掛けしたり、また一人の時間を大切にしよう支援している。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の中には、ご自分の意向や希望が叶えられる方が多くできる限りの希望に添えるよう支援している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	協力医療機関が近隣にあるため、必要なときにはすぐに受診できるように連携している。またそのことを常に利用者に説明することによって不安なく生活できていると感じる。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (自己評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の言葉や表情からも要望は早くに応じられるような対応を心がけている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (自己評価) ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	頻回に来訪していただくご家族にはその都度近況報告や不安なことや困ったことを聴く様に努めている。また遠くのご家族へも定期的な手紙や連絡を行うように努めている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ③ たまに 4 ほとんどない	毎日ホームの前を来られる人とは馴染みの関係になっているが、習慣的にたずねていただくまでにはいたっていない。

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	(自己評価) ② 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない	散歩に出掛けた際には地域の方々や運営推進会議の出席者からも挨拶をしていただくようになりつつあると感じている。また、会議の出席者においては事業所のよき理解者として馴染みの関係になっていただいている。
98 職員は、生き生きと働いている	(自己評価) ① 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	精神的肉体的に疲れたときには小さなトラブルが発生することもあるが、話し合うこと、わかりあうことでコミュニケーションをとりながら笑顔で働けているように感じている。
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己評価) ② 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の訴え等に傾聴する姿勢でいるが、本音がわからない方もある。職員のサービスに対する自己満足で終わらないように注意をしている。
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己評価) ① 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会時の会話や会議の話の中ではサービスに対して満足されていると感じることが多い。しかし、遠慮もあるかもしれないので、ホームへの要望や不満がいてこそ本当の満足だと受け止めて、これからはホーム側も言いやすい雰囲気作り等に取り組んでいく必要があると思う。

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

理念「家庭的な環境の下、あたり前に普通の生活を」を目指し、利用者の方々に認知症になってもあたり前に生活していただくためにはどのようなケアが必要なのかを考え日々取り組んでいます。畑には季節の野菜を植え、海に近い市であるため新鮮な魚を買いに行き、人としてあたりまえの生活を感じることがたくさんある中、朝起きて、誰が押し付けるわけでもなく朝食を摂ることから始まり、自然に掃除、洗濯に入り昼食、散歩、夕食等通常私たちもあたり前に行っている生活を基盤として毎日を過ごすようにしています。一言に「あたり前」といっても、何を基準に何を根拠に行っていくかを考えながら、職員主導にならないように注意をしながらケアに取り組んでいる中、事業所としては、その中で一人一人にあった暮らしを尊重して、行きたい場所へは行けるように、行いたいことは行い楽しいことを好まれる方には支援できるように心がけています。利用者の方からは「楽しかったよ、よかった、またしてね」といっていただくことが多数ありますが、「はたしてこれで良かったのだろうか、本当にそう思っていたらいいのだろうか」を職員同士、常に反省することも忘れないように業務にあたっています。これからは、介護も日進月歩、努力を惜しまず、利用者の方が安心してこの「よしの里であたり前に」生活できるよう取り組みを行っていきたいと思っております。